

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第263回

藤原竜也

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年7月19日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

何度も「恥」をさらしていくことで
積み上がっていくものがある。

藤原 竜也は、日本の俳優。ホリプロ所属。埼玉県秩父市出身。秩父市立秩父第二中学校卒業。堀越高等学校中退。

Column

この言葉の“恥をさらす”とは、失敗（挫折）することだと思います。時には人に笑われたり叱られたりしてショックを受けるということですから、『正直、そういうのは避けて通りたいな…』と思う部分に自ら立ち向かっていくという“勇気”を出すことや、“自分と向き合う”ことが何度も人生には必要であるということが伝えたいのだと思います。何度もです。今回は、言われただけでも怯んでしまいそうな言葉を紹介합니다。

誰でも失敗は嫌なものです。自分の中の“汚点”だと感じる人も少なくないでしょう。よく“人生は何度でもやり直せるよ！”というメッセージがありますが、その挑戦が本気なら本気なほど、失敗した時は虚無感に前身を乗っ取られたような感覚になり、その後の明るい未来が全くイメージできない状態に陥ることもあります。私自身もこれまでの人生の中で大きな挑戦をしてきました。結果に飛び上がるほど喜んだこともありますし、『何もかも終わった…』と打ちひしがれたこともあります。それによって何が積み上がったかと問われると、挑戦して技術や能力を得たことよりも、新たな挑戦をすることへの覚悟を決めることや、挑戦中に挫けそうになった自分を立ち直らせることが自力“でも”できる力が積み上がった（積み上がってきている）のではないかと感じています。

なぜそう感じるかというと、もう少し前の頃であれば“壁”を目の前にした時に、自分を鼓舞することは『あの時もうまくいったじゃないか！』というポジティブな結果を思い起こすことのみでした。しかし、最近は『あの時は失敗してもう終わりだと思ったけど、また新たな挑戦が目の前に訪れた。失敗したって終わりじゃないんだからまた挑戦してみればいいじゃないか！』と、ネガティブな結果からもモチベーションを向上させることができるようになってきていることが自分の中の大きな変化として感じられるからです。

勇気を出す、覚悟を決めて挑む経験は自分にとって大きな自信となるものです。成功させるつもりで挑戦するので結果はもちろん成功の方が良いとは思いますが、あくまでも副産物なのかもしれません。100回負けても“負け癖”なんて一切つかない人もいれば、たった1回の負けで挑戦をやめてしまう人もいます。このコラムでも何度か述べていますが、挑戦をしなければ失敗はしません。ただ、成功もしないのです。失敗によって積み上がるものもあれば、成功によって積み上がるものもあります。挑戦をしないということは、その全てを放棄するということになってしまいます。自分の人生に貪欲に挑み、素晴らしい自分の財産を積み上げていきたいものですね！